

Economic Indicators

発表日: 2024年12月18日(水)

貿易統計(2024年11月)

～半導体関連の減速で実質輸出は弱い動き～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量					
		原数値		季調値		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		中国	
		前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
23年	11月	▲ 8,139	▲ 4,404	▲ 0.2	▲ 11.6	▲ 5.6	3.4	▲ 11.8	▲ 9.9	▲ 3.4	2.9	0.4	▲ 3.3		
	12月	324	▲ 6,809	9.7	▲ 6.6	2.9	16.9	2.2	2.7	▲ 3.2	▲ 5.6	▲ 13.7	▲ 0.7		
24年	1月	▲ 17,665	▲ 985	11.9	▲ 9.8	2.3	7.1	▲ 0.2	20.4	▲ 8.4	▲ 3.9	▲ 22.1	▲ 9.2		
	2月	▲ 3,830	▲ 6,380	7.8	0.4	▲ 1.5	10.9	3.5	▲ 7.1	1.4	6.1	▲ 3.3	12.6		
	3月	3,824	▲ 7,257	7.3	▲ 5.1	▲ 2.1	1.8	▲ 6.5	0.9	▲ 9.6	▲ 2.3	▲ 1.1	▲ 19.4		
	4月	▲ 4,713	▲ 5,082	8.3	8.0	▲ 3.2	▲ 2.3	▲ 13.7	▲ 5.1	0.6	16.1	▲ 1.9	1.8		
	5月	▲ 12,230	▲ 5,298	13.5	9.4	▲ 0.9	6.7	▲ 17.9	▲ 0.4	▲ 2.0	13.0	▲ 2.7	3.8		
	6月	2,194	▲ 7,594	5.4	3.3	▲ 6.2	▲ 2.9	▲ 20.1	▲ 8.9	▲ 8.9	5.0	▲ 5.9	▲ 5.6		
	7月	▲ 6,343	▲ 5,976	10.2	16.5	▲ 5.2	▲ 5.0	▲ 13.8	▲ 10.9	4.4	▲ 0.7	▲ 3.0	13.6		
	8月	▲ 7,092	▲ 5,035	5.5	2.2	▲ 2.8	▲ 7.7	▲ 12.3	▲ 4.9	▲ 3.8	▲ 6.5	4.8	▲ 1.7		
	9月	2,995	▲ 2,016	▲ 1.7	1.9	▲ 6.9	▲ 0.3	▲ 11.2	▲ 15.1	▲ 1.3	3.7	▲ 4.3	▲ 0.6		
	10月	▲ 4,621	▲ 2,292	3.1	0.4	0.1	▲ 6.1	▲ 15.9	▲ 4.4	2.5	2.8	▲ 7.3	7.7		
	11月	▲ 1,176	▲ 3,842	3.8	▲ 3.8	▲ 0.1	▲ 9.6	▲ 14.2	▲ 6.5	▲ 5.3	▲ 9.4	▲ 20.8	3.6		

(出所)財務省「貿易統計」、前年比(%)

○貿易収支(季節調整値)は赤字基調が継続

財務省より発表された11月の貿易統計では、輸出金額が前年比+3.8%、輸入金額が同▲3.8%となり、貿易収支は▲1,176億円の赤字(事前予想コンセンサス: ▲6,898億円の赤字、当社予想: ▲6,074億円の赤字)となった。11月の為替レート(月中平均152.83円/ドル)は前年と比べて円安水準にあったことから価格ベースが輸出金額、輸入金額ともに押し上げる一方で、数量ベースは前年比減少となった(輸出数量: 前年比▲0.1%、輸入数量: 同▲5.3%)。

季節調整値でみると、輸出金額が前月比+0.2%(10月: 同▲0.8%)、輸入金額が同+1.9%(10月: 同▲0.5%)とともに増加したが、輸入金額の伸びが上回ったことで貿易収支は▲3,842億円の赤字拡大となった(10月: ▲2,292億円の赤字)。先行きについても、国内外の財需要の弱さを反映して輸出、輸入ともに数量が伸び悩み、当面の貿易収支は赤字基調が続くだろう。

○実質輸出は2か月連続の減少

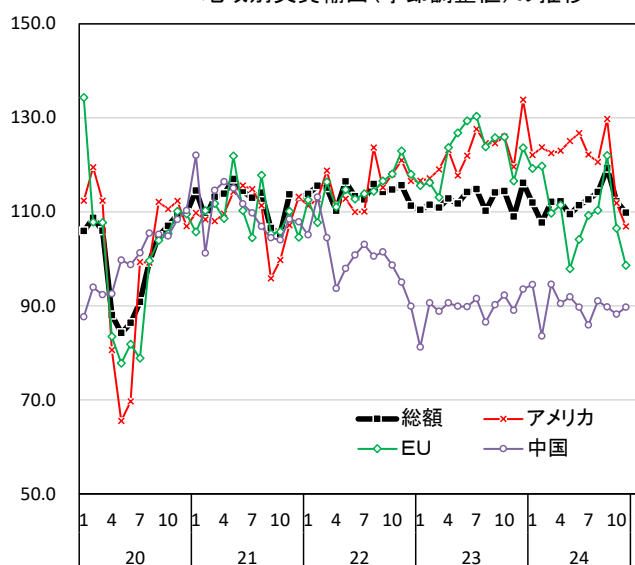
物価変動の影響を除いた実質輸出(季節調整値)は前月比▲2.2%(10月: 同▲5.9%)と2か月連続の減少となった(実質化と季節調整は第一生命経済研究所)。地域別には、米国向けが前月比▲4.4%(10月: 同▲13.8%)、欧州向けが同▲7.4%(10月: 同▲12.7%)、アジア向けが同▲0.5%(10月: 同▲2.7%)、アジア向けのうち中国向けが同+1.7%(10月: 同▲1.7%)となった。

この結果、10-11月平均は7-9月期対比で▲3.8%pt下回る。7-9月期は主にアジア向けの半導体関連輸出の好調を背景に前期比+3.9%の伸びとなっていたが、こうした動きが一巡したことで輸出は減速している。11月の品目別内訳をみると、半導体等電子部品などの電気機器が前月比▲2.6%(10

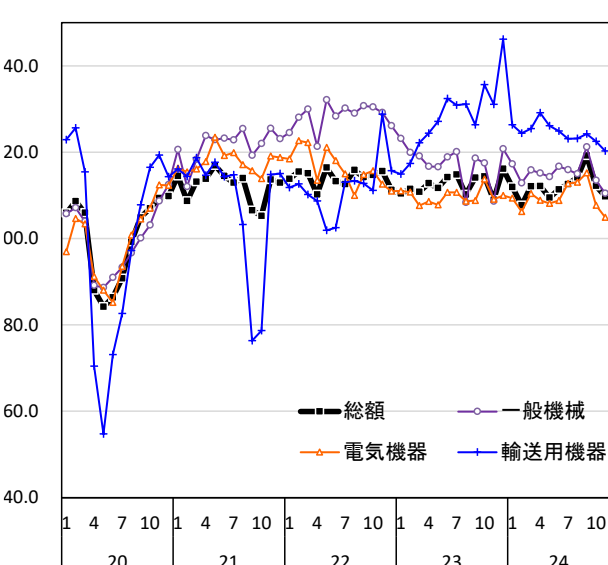
月：同▲6.5%)、半導体等製造装置などの一般機械が同▲2.6% (10月：同▲6.4%)、自動車などの輸送用機器が同▲1.8% (10月：同▲1.4%)と主力はいずれも振るわなかった。7-9月期を上回るためには12月に前月比+13.0%以上の急増が必要であることから、10-12月期は3四半期ぶりの前期比マイナスとなる公算が大きい。

先行きについて、これまで輸出を下支えしてきた半導体関連(電子機器や一般機械)は、このところ出荷指数や在庫率にも陰りが見えはじめており、先行きも減速する可能性が高い。これに加えて、米国、欧州、中国といった主要相手国の景気減速によって、実質輸出の下押し圧力は強い。輸出に力強い回復は期待しにくく、牽引役不在の中で停滞感の強い状況が続くだろう。

(2020年=100) 地域別実質輸出(季節調整値)の推移



(2020年=100) 財別実質輸出(季節調整値)の推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。